

重要

BCGワクチンを接種する前に内容をよく読み、十分理解してから接種をしましょう

■ 結核について

① 感染経路

結核は、結核菌の飛沫感染・接触感染及び空気感染によって感染します。感染者の全てが発病するわけではなく、結核菌と人との免疫力の力関係により発病します。感染してから長期間潜んでいた結核菌が、免疫力が衰えたときに活性化して発病することもあります。

② 潜伏期間(感染した後、症状が出るまでの期間)

感染してから2年くらいのうちに発病することが多いと言われており、感染者の60%位の方が1年以内に発病しています。しかし感染後、数年～数十年後に発症することもあります。

③ 主な症状

初期の症状は風邪と似ていますが、咳、痰、発熱（微熱）等の症状が長く続くのが特徴です。

④ 症状の経過

初期の症状は風邪と似ていますが、体重が減る、食欲がない、寝汗をかく等の症状もあります。更に進行すると、身体のだるさや息切れ、血液の混じった痰等が出始め、呼吸困難に陥ることもあります。

■ BCGワクチンについて

(ワクチンの種類と特徴について)

牛型結核菌を弱毒化して、これを凍結乾燥させた生ワクチンです。適切な接種で行われたBCGワクチンで免疫をつけておけば、発病する機会を大幅に減らすことができ、その効果は10年以上持続されます。特に乳幼児における結核性髄膜炎や粟粒結核などの予防に有効です。

(接種時の注意)

接種をしたところは、日陰で乾燥させてから衣服を着せるようにして下さい。10分程度で乾きます。

(BCGワクチンの効果と副反応)

予防接種を受けることで体内に免疫ができ、結核の発病する割合を抑えることができます。ただし、予防接種を受けることで軽い副反応が見られることがあり、極めて稀に重い副反応が起こることもあります。

【接種部位の反応】

接種後10日頃から、接種部位に小さな発赤ができ、一部に小さい膿ができることがあります。この反応は接種後1ヶ月頃が最も強くなりますが、その後はかさぶたができて接種後3ヶ月までには治り、小さな痕が残るのみになります。これは異常反応ではなく、BCG接種により免疫がついた証拠です。自然に治るので、包帯をしたりバンソウコウ等を貼ったりせずに、接種部位の清潔を保って下さい。

また接種前に結核菌に感染している場合には、接種後10日以内に、接種部位の発赤、腫れ及び化膿等が見られ、通常2週間から4週間後には炎症は治まり、かさぶたができて治癒する一連の反応（コッホ現象）が起こることがあります。コッホ現象と思われる反応がお子さんにみられた場合は、速やかに接種医療機関を受診するようにしましょう。

【軽い副反応】

接種をした側のわきの下のリンパ節が腫れることがあります。接種後1ヶ月～3ヶ月頃に発生し、多くはそのままにして様子を見てかまいませんが、時にただれたり、大きく腫れたり、稀に化膿して自然に破れて膿が出るがあります。このような時には医師に相談して下さい。

【稀に生じる重い副反応】

ショック、アナフィラキシー様症状（蕁麻疹 呼吸困難等）、全身播種性BCG感染症、骨炎・骨髄炎など。

裏面に続く

■ 予防接種による健康被害救済制度について

定期予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障が残るような健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく補償を受けることができます。健康被害の程度に応じて、法律で定められた金額が支給されます。健康被害が予防接種によって引き起こされたものなのか、別の要因によるものなのかの因果関係を国の審査会で審議し、予防接種によるものと認定された場合に補償を受けることができます。

■ 接種するに当たっての注意事項

- ① 接種当日は朝からお子さんの様子を観察し、普段と変わったところがないか確認してください。
- ② 予診票への記入内容は接種する医師への大切な情報です。接種当日責任を持って記入してください。
- ③ 予防接種の際には必ず保護者が同伴してください。保護者が同伴できない場合は、事前に委任状への記入を行い、委任された者が委任状を持って接種児に同伴してください。

● 接種を受けることができません

- ① 発熱がある場合（通常37.5℃以上）
- ② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな場合
- ③ 受けるべき予防接種の薬液の成分によりアナフィラキシー（ひどいアレルギー反応）を起こした場合
- ④ 上記に掲げるものの他、予防接種を行うことが不適当な状態にある場合

● 接種を受ける際に注意が必要です

- ① 心臓病、腎臓病、肝臓病、血液の病気や発育障害等の基礎疾患がある場合
- ② 予防接種で、接種後2日以内に発熱のみられたお子さん及び発疹、蕁麻疹などのアレルギーと思われる異常が見られた場合
- ③ 過去にけいれん（ひきつけ）を起こしたことがある場合
- ④ 過去に免疫不全の診断がなされている場合及び近親者に先天性免疫不全の者がいる場合
- ⑤ ワクチンに含まれる抗生物質などの成分にアレルギーがあるといわれた場合

■ 接種後の注意

- ① 予防接種を受けた後30分間は、医療機関でお子さんの様子を観察するか、医師とすぐ連絡が取れるようにしておいてください。
- ② 予防接種後、生ワクチンでは4週間は副反応の出現に注意してください。
- ③ 接種部位は清潔に保ってください。入浴は差し支えありませんが、接種部位はこすらないようにしてください。
- ④ 当日は、激しい運動は避けてください。
- ⑤ 接種後、接種部位の異常反応や体調の変化、さらに高熱、けいれん等があった場合には、速やかに医師の診察を受けてください。

説明文を読んで、もし分からないことがあれば、接種を受ける前に市役所健康増進課や接種医に質問しましょう。必ず、納得された上で、お子さんに接種することを決めましょう。



